

Shien

し え ん

第31号

バックナンバーは
 埼玉県立図書館
 ウェブサイトへ!



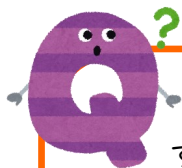
こどもの読書に関わる方々の活動とネットワークを支援(Shien)する。
 そんな大きな願いをもったささやかな情報誌です。

令和4年1月に永眠された児童文学作家・翻訳家の松岡享子さんが、生前力を入れて取り組まれていたストーリーテリング。

言葉を聞いただけではどのようなことをしているか想像できない方も多いと思います。

今回は初めてストーリーテリングに取り組まれる方向けに、ストーリーテリングとは何か、その魅力を実際に取り組まれているボランティアさんのインタビューを交えてお伝えします。

特集1【ストーリーテリングとは】



ストーリーテリングとは、語り手が昔話や創作などの物語を覚え、語り聞かせることです。「素話」とも言い、絵本の絵を見せながら物語を読み聞かせる「読み聞かせ」や、本の「朗読」とは異なり、物語を覚えて、自分のことばで語るという手法です。1960年代、アメリカの公共図書館で子どもへのサービスとして行われていたストーリーテリングということばが日本に入り、1970年代には松岡享子さんをはじめ、アメリカで図書館学を勉強してきた方々によって日本で急速に広まりました。

一方、ストーリーテリングということばが広がる以前から、日本の子どもたちは、おじいさんやおばあさん、あるいは、両親から語られる昔話に耳をすませてきました。語ってくれる人の愛情と一緒に、昔話を楽しみ、生きていく知恵などを身につけ、心に刻んできました。

つまり名称に関わらず、物語を語るという行為は、語り手と聞き手の間に心の交流を生み、親密で温かい人間関係の構築につながっているのです。



📖 ストーリーテリングにおすすめの本 📖

- 『お話とは』 『選ぶこと』 『おぼえること』 『話すことⅠ—よい語り』 『話すことⅡ—お話の実際』 『語る人の質問にこたえて』 『語るためのテキストをととのえる—長い話を短くする』 「レクチャーブックス・お話入門」シリーズ1～7 (松岡享子著 東京子ども図書館)
- 『子どもと本の世界に生きて』 (アイリーン・コルウェル著 こぐま社)
- 『“グリムおばさん”とよばれて』 (シャルロット・ルジュモン著 こぐま社)
- 『ストーリーテラーへの道』 (ルース・ソーヤー著 日本図書館協会)
- 『お話のリスト』 新装版 (東京子ども図書館)



特集2【ストーリーテリングを行っているボランティア団体の活動紹介】

埼玉県内東西南北のそれぞれの地域の図書館や学校などで活動を行っている4つの団体の方に活動内容のご紹介とこれからストーリーテリングを始めたい方へメッセージをいただきました。

浦和子どもの本連絡会(さいたま)



長い間図書館や小学校でおはなしを語り、絵本を読んで、子どもたちと楽しい時間を過ごしてきました。おはなしを語るきっかけは、山形に住んでいた時、市立図書館でのおはなし会に参加し、おはなしがとても楽しかったことと子どもが喜んだことからでした。

語り始めて何年かは、語尾が弱くなったり、人物像が描けていなかったり、自分の想像力が足りなかったりと余裕を持って語ることが出来ませんでした。又子どもの年齢に合わないおはなしをしてしまい、例えば「ヤギとライオン」(『子どもに聞かせる世界の民話』矢崎源九郎編 実業之日本社)で「おいしい肉ってなんのことかわかりますか?」のところでは「肉!」「鶏肉!」の答えが返ってきたこともありました。年月を重ね、何度も語るうちに、子どもの顔をしっかり見て語れるようになりました。子どももおはなしを聞く機会が増え、今日は何のお話かな?の顔で始まり、頭の中でイメージを膨らませて、お話にぐっと集中してくれる時があります。その集中力に自分が引き込まれそうになったこともあります。終わるとどの子も満足そうな顔をしてくれました。これを引き合う関係だとしたら、今後も子どもとお互いに引き合えるような語りをしていけたらと思っています。

○活動場所:さいたま市立道祖土小学校・さいたま市立南浦和図書館・さいたま市立東浦和図書館勉強会に参加

○活動内容:ストーリーテリング・絵本を読む

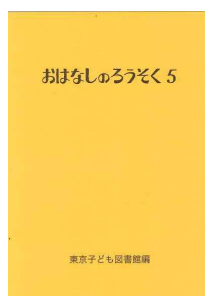


《図書館でのおはなし会の様子》

♪ある日のプログラム♪

(小学校6年生向け 6月・10月) 10分

- ・おはなし「三枚のお札」(『おはなしのろうそく5』東京子ども図書館)
- ・絵本『シロナガスクジラより大きいものっているの?』(ロバート・E・ウェルズ作 せなあいこ 訳 評論社)



おはなしの森(幸手)



『子どもにおはなしを届けたい!』と1996年に結成。学校訪問をして場所の開拓をしながら活動を続けています。その時心がけているのはクラス毎、担任の先生も一緒に聞いてもらうこと、おはなしの本を紹介することです。ある時2年生に、「大工と鬼六」(『日本昔話百選』稲田浩二編著 稲田和子編著 三省堂)を語りました。その後で絵本『だいくとおにろく』(松居直再話 赤羽末吉画 福音館書店)も紹介すると、真っ赤な太鼓橋を見た男の子が「ぼくのはそんな橋じゃない、真っすぐな橋だよ!」と勢い込んで教えてくれたのです。木の橋なんだって。言葉をしっかりと自分で絵にして想像しながら聞いてくれたのです。〈ここなんだよな お話の力は〉と嬉しくて忘れられないお話会です。また、お話会が終わった後、傍にきて「また来る?」と心配そうに聞いて、「来るからね」というとにっこりして手を振りながら走っていく姿をみるとこちらも元気を貰います。「楽しかった」という言葉やお手紙、外で「お話会の人」と声をかけて貰うこともあります。子どもの笑顔に会いたくて続けていこうと思う日々です。

初めての方は是非、昔話から選んでください。語り継がれてきた昔話は、耳から聞いて分かりやすく、繰り返しや、擬音、うたなどがあり、子どもが楽しんで聞ける条件を持っています。良いテキストの昔話を沢山読んで、心を動かされた好きなお話を語ってください。子どもと気持ちが一つになって、おはなしを楽しめるでしょう。おはなしは、聞き手にも語り手にも喜びをくれる素晴らしいものです。

○定例勉強会・月1回

・おはなしの森だより の発行

○図書館

- ・ぴよぴよおはなし会 未就園児対象
- ・昔っこを楽しむおはなし会 大人対象
- ・平和のつどい 子ども、大人対象

○学校

- ・小、中学校合わせて10校前後
- ・年1~3回 全学年クラス毎(特別支援学級含む) 1時限(45分)
- ・おはなし三話を軸に、詩 ことばあそび わらべうた パネルシアター エプロンシアター
- ・「6年間のおはなしのリスト」作成。卒業時に配布

○児童館 学童保育など 依頼に応じて



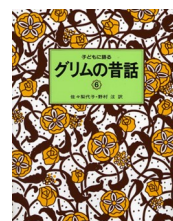
《小学校でのおはなし会の様子》

♪ある日のプログラム♪

(小学校5年生向け 6月) 45分

- ・おはなし「小石投げの名人タオ・カム」
(『子どもに語るアジアの昔話2』 こぐま社)
- ・おはなし「ふるやのもり」
(『おはなしのろうそく4』東京子ども図書館)
- ・おはなし「いばらひめ」
(『子どもに語るグリムの昔話6』こぐま社)
- ・絵本『ことばのこぼこ』(和田誠作 瑞雲舎)

*日本、外国の昔話と創作物語1話を基本とし、お話を、全部語り終えた後で、出典本や類似本の紹介をします。



おはなしの会「虹」(熊谷)



おはなしの会「虹」は平成元年から語りを中心としたおはなし会を行う活動をしています。

おはなし会は赤いろうそくに火をつけて始まります。子ども達は集中して、おはなしを聞いてくれます。おはなしの中でおこる事を身を乗り出すようにして聞き、おどろいたり、微笑んだり、うなずいたり表情豊かにおはなしの世界を楽しんでくれます。子ども達がろうそくの火に願い事をして、火を消しておはなし会は終わります。

会員18名、大好きなおはなしの世界を子ども達により良く伝えるために、月二回の例会で研鑽に努めています。なかなか思うようにはいきませんが、目を輝かせて、じっとおはなしに耳を傾けてくれる子ども達の姿は語りを続けていく励みになっています。これからも語りと絵本で楽しいおはなしの世界を伝えていきたいと思ひます。

○活動場所: 県立熊谷図書館・熊谷市立図書館・熊谷市内の小学校・幼稚園・児童クラブなど

○活動内容: 語り、絵本の読み聞かせでおはなし会

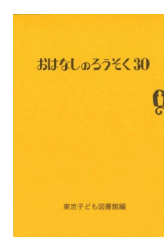
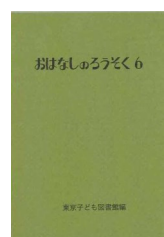
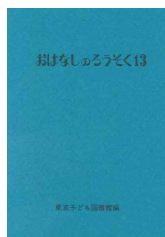
♪ある日のプログラム♪

(小学校4年生向け 10月) 30分

- ・おはなし「おどっておどってぼろぼろになったくつ」(『おはなしのろうそく13』東京子ども図書館)
- ・おはなし「なら梨とり」(『おはなしのろうそく6』東京子ども図書館)
- ・おはなし「まぬけなトッケビ」(『おはなしのろうそく30』東京子ども図書館)



《小学校でのおはなし会の様子》



おはなしサークル・ピッコロ(小川)

私は、ストーリーテリングの活動をするにあたり次のことを心にとめています。

- ①絵本を大切に。絵本を通していろいろな物事や情景に触れる経験は、おはなしの風景を想像する助けになります。
- ②好きこそもの上手なれ。語る事が好きという気持ちは聞き手にも伝わるようです。また、不思議なもので、好きなおはなしは途中で言葉に詰まっても焦らずに語れるものです。ストーリーがしっかり自分の中に入っているからだと思ひます。
- ③たくさんのおはなしに出会う。聞いたり読んだりしておはなしの世界と出会うことは良い刺激になります。

○活動場所: 小川町立小川小学校

○活動内容: ストーリーテリング、絵本の読み聞かせ

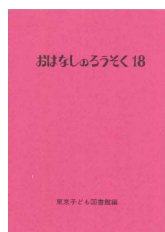


《児童館でのおはなし会の様子》



覚え方は様々で、私は広告の裏などになぐり書きしながら声に出して覚えました。

松岡享子先生の著作に『ことばの贈りもの』（東京子ども図書館）という本がありますが、ストーリーテリングの活動はおはなしのプレゼント、大切にしっかりと届けたいと思います。



♪ある日のプログラム♪

(小学校低学年向け 秋) 15分

- ・おはなし「ホットケーキ」
(『おはなしのろうそく18』
東京子ども図書館)
- ・絵本『まほうのコップ』(藤田
千枝原案 川島敏生写真 長谷
川摂子文 福音館書店)

特集3【経験者の方へのインタビュー】

実際にボランティア活動をされている方からお話を聞かせていただきました。子どものころにストーリーテリングを聞いて育った職員の体験談も併せてどうぞ。

数年前に宮代町立図書館で行われたおはなしボランティア講座に誘われたのが、「語り」をはじめたきっかけです。

節分の時期になるとよく出すおはなしで「だんだん飲み」(『日本の昔話5』おざわとしお再話 赤羽末吉画 福音館書店)という昔話があるのですが、奇想天外な物語に「どんだけ腹がでかいんだ」という野次が飛んできたり、「うげっ」(なんてことだ?!)って顔して笑ってる子がいたり、毎回反応を楽しませてもらってます。

また「屋根がチーズでできた家」(『子どもに語る北欧の昔話』福井信子編訳 湯沢朱実編訳 こぐま社)というおはなしを語った時には、トロールという怖い魔女に主人公の兄妹が捕まってしまうシーンで、必死な顔をして聞いてくれている子ども達を見て、語り手として達成感を感じました。 Nさんより



いきなり、ストーリーテリングは、ハードルが高いですね。

おはなしを丸ごと覚えることが難しかった私は、パネルシアターや、エプロンシアター、手袋人形を入口にしました。図書館で借りた本を参考に、大型書店や100円ショップで材料を用意して無地のエプロンにアップリケをしたり、参加した講座で拝見したカラー軍手を使った「タンポポ」や「雷こぞう」を作ったり。それらを学校などでのおはなし会で、読み聞かせる絵本に合わせることで通常の読み聞かせとはまた違った楽しみがあることがわかりました。

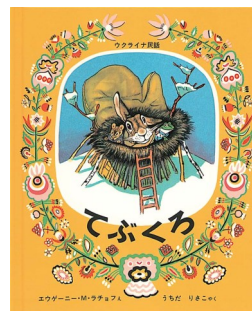
とするとストーリーテリングでは、どんな感じなのか。

(次のページへつづく)



『てぶくろ』（エウゲーニー・M・ラチョフエ、うちだりさこやく 福音館書店）、『すみれ島』（今西祐行文 松永禎郎絵 偕成社）、「空中ブランコのりのキキ」（『NHKおはなしシリーズ 1』別役実著 日本放送出版協会）など挑戦するうちに、聞いてくれる子どもたちの反応がよく見え、こんなにも一体感を感じられるものだとは！と驚きました。嬉しかったことは、おはなしを聞いた子どもから、お手紙をもらい、そのお手紙に絵が描かれていたことです。その子の頭の中に絵が浮かんでいたんですね。みなさんも、お仲間と一緒に、ぜひ体験してください。

Oさんより



私がストーリーテリングをはじめたきっかけは、松岡享子さんの語られたお話に完全に魅了されたことでした。

図書館ボランティアをはじめて10年間は、絵本の読み聞かせと手遊びが楽しくて、ストーリーテリングに興味を持ったことはありませんでした。物語を覚えるなんて大変過ぎるし、覚えなくても読んであげればいいじゃない？と思っていたのです。

それがある時たまたまチケットを譲られ聞きに行ったのが、当時東京子ども図書館の理事長をしておられた松岡さんのお話会でした。「犬になった王子」（『白いりゅう 黒いりゅう 中国のたのしいお話』賈芝編 孫剣冰編 君島久子訳 赤羽末吉絵 岩波書店）というチベットの昔話を聴きながら、私はいつの間にか物語の中にすっぽり入り込んでいました。そして聴き終わった瞬間、「人間ってほんとにすごいなあ！」と、心の底から感動していたのです。しばらくたって我に返った時、おとなの自分がここまで物語に入り込んでいたことに驚き、同時にストーリーテリングの力に大きく目を開かれる思いがしました。

それから14年、ストーリーテリングに夢中の日々が続いています。

Kさんより



私が通っていた小学校は読書が盛んで、週に数回、保護者の方が絵本の読み聞かせに来ていました。その中でも印象的だった保護者の方で、『おはなしのろうそく』（東京子ども図書館）を語って下さる方がいました。「エパミナダス」（同上1巻）や「ねずみじょうど」（同上3巻）、時には「ながすね ふとはら がんりき」（同上8巻）などの長編作品を語って下さり、お話に飽きる子は一人もおらず、たとえ前に聞いた話だったとしても、じっと聞いているのです。ユーモアたっぷりの面白いお話や、心躍る物語を聞き、その時の記憶は今でも鮮明に覚えています。

司書になり、それが「ストーリーテリング」と呼ばれるものだと知ると、自分がいかに贅沢な経験を、日常的に享受していたかということに気が付きました。

お話を覚えるのは楽しいですが、まるまる一つのお話を覚えて自分の言葉として語るのは大変なことです。それを子どもたちのために毎週準備して下さったかと思うと先述した保護者の方には感謝しかありません。けれども、その時の記憶が今の私の仕事のモチベーションになっています。なぜなら、子どもの頃に出会ったお話の感動がいかに人の心を豊かにしてくれるか大人になった今、実感しているのですから。

職員Yより



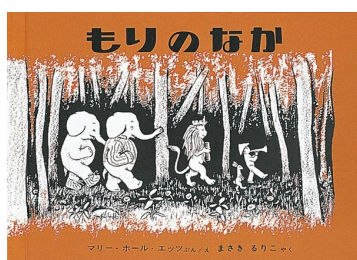
ブックリストグループより

おうちで読み聞かせに向いている本

コロナの感染が広がってから外でのおでかけがしにくい世の中ですね。今回のブックリストでは学校や図書館での大勢の読み聞かせには向いていないけれど、おうちでの読み聞かせに向いている本をご紹介します。

絵が遠くまで見えず文字が多くても楽しめる本はたくさんあるので、ぜひおうちで子どもたちにゆっくり読んであげてください。

タイトル	作者	出版社	あらすじ	読み聞かせポイント	対象
もりのなか	マリー・ホール・エッツ／ぶん、まさきりこ／やく	福音館書店	ぼくがもりのなかをおさんぼしていると、ライオンも、ゾウも、クマもみんなぼくについてくる。みんなもいっしょについてきて！	一見地味ですが、子どもの頃読んでもらって大好きだったという声をよく聞きます。子どもと一緒に絵を見ながら、静かにゆっくり読んでください。	幼児から
けしつぶクッキー	マージェリー・クラーク／作、モード・ピーターシャム／絵、ミスカ・ピーターシャム／絵、渡辺茂男／訳	童話館出版（ペンギン社）	いたずらなアンドルーシクは、カチューシカおばさんから市場に出かけるから焼きあがったばかりのけしつぶクッキーのみはりをお願いされましたが……。	優しい語り口調で、声に出すと耳に心地よく響いてきます。さらにピーターシャム夫妻による明るくて愉快的な挿絵が目を楽しめます。主人公の幼い男の子・アンドルーシクとカチューシカおばさんとのちょっぴり不思議な1日の出来事を親子で楽しんでください。	低学年から
ルドルフとイッパイアッテナ	斉藤洋／作、杉浦範茂／絵	講談社	猫のルドルフは、ひよんなことから知らない町まで来てしまった。そこでルドルフは、その町のボス猫に出会う。「おれの名前は <u>いっぱい</u> あつてな……」	黒ねこのルドルフは、魚屋から逃げ、トラックの荷台に飛び込み、東京でトラねこのイッパイアッテナと出会います。ルドルフが経験の中で成長していくのが面白く、細かい章で読み進めやすいです。	中学年から



インターネットからの情報収集担当よりおすすめウェブサイトの紹介 ストーリーテリングが学べるリンク集

今回のテーマのかたり（ストーリーテリング）についてのページを集めてみました。色々な公立図書館でお話会やストーリーテリングの仕方、選書について紹介されています。またストーリーテリングの講習を行っている団体も各地にあり、それぞれのホームページで講習参加者の募集をしています。

（子ども読書支援ボランティア 坂本）

山梨県立図書館（かいぶらり）ストーリーテリング実践

<https://www.lib.pref.yamanashi.jp/storytelling.pdf>

集団を対象に、これからストーリーテリングをやってみたいと考えている方に向けたガイドブックです。お話の選び方や覚え方、語る時のポイントなど、ストーリーテリングの基本を紹介しています。

東京子ども図書館 <http://www.tcl.or.jp/>

子どもの本と読書のための私立図書館のページ。おはなし会の講座やお話（ストーリーテリング）のレクチャーブックやお話集『おはなしのろうそく』について紹介されています。またYoutubeでおはなしやブックトークの動画の配信を行っています。

子ども読書支援センターからのお知らせ

実習を実施！

学校図書館活用講座を開催しています

県内の小・中学校の教諭、学校司書を対象に、学校図書館の活用した授業の活性化を目指し、講義や演習を行っています。

令和4年度は「本とインターネットを使った情報の探し方～SDGsを題材に～」をテーマにとりあげました。

- ★タブレット教育が広まる中、調べ学習をどのように支援したらよいのか？
 - ★確かな情報を見極める力を身につけさせたい
 - ★本とインターネット、どちらをどうやって使うべきなのか？
- そんな疑問にお答えします。例年7～8月の夏季休暇期間に開催しています。



★参加者から感想をいただきました★

図書館もインターネットも、互いの良さや欠点を生かし補い合いながら活用できるよう指導していく必要があると思いました。実際に調べ学習を進めることで、子どもたちがどんなことに興味をもつか考えながら学ぶことができました。

【小学校司書教諭】

授業の中でどのように学校図書館を活用していったらいいのか、活用の機会が減っていると感じていたので、今日の講座は大きな学びとなりました。また、実習を通して調べ学習の楽しさや学びの広がりを感じました。

【小学校教諭】

交流や情報交換も！

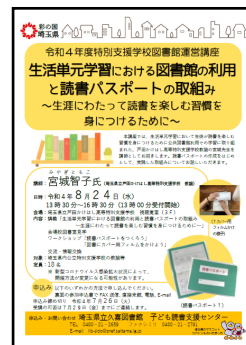
特別支援学校図書館運営講座を開催しています

県内の特別支援学校の教諭や図書館担当者等を対象に、学校図書館の運営について講義や演習等を行い、学校図書館の整備と活性化を図ります。

令和4年度は「生活単元学習における図書館の利用と読書パスポートの取組み～生涯にわたって読書を楽しむ習慣を身につけるために～」をテーマにとりあげ、

戸田かけはし高等特別支援学校にて開催しました。

例年7～8月の夏季休暇期間に開催しています。



講師を派遣！

読み聞かせボランティアのための講師派遣

県立久喜図書館では、読み聞かせボランティアの団体(3名以上)に講師を無料で派遣しています。

講師は県内で読み聞かせボランティアとして活動しているベテランの方々。

研修会を終えた団体からは、毎回たくさんの感想をいただいております。

お申込みは、県立久喜図書館まで。



先生が実際に読み聞かせを実演し、聞く側の体験が出来たことが良かったなと思いました。

【小学校ボランティア】

実際にお話を伺うことで書面や画像だけでは感じられないことを感じる事ができ、貴重な機会になりました。

【小学校ボランティア】

